

建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社
 〒101-0054
 東京都千代田区神田錦町3-13-7
 電話(03) 3259-8711
 FAX(03) 3259-8730
 振替貯金口座00190-2-97953
 ©日刊建設通信新聞社 2011

アムスエンジニアリング(宮城県東松島市、阿部登壽男社長)が開発した汚染土壌の改良技術「アムス40とアムスエコプラントシステム工法」が、国土交通省の「公共工事等における新技術活用システム」(NETIS)で事後評価された。汚染土壌の対策工法がNETISで事後評価されたのは初めて。

アムスエンジのエコプラント工法

法で、複数の汚染物質が混在している場合が多く、分離は困難とされていた有害重金属汚染土の溶出を抑制し、環境基準値以下にする。

これまでにNETISを始め、酸化マグネシウム系資材分野では日本で初めて特許を取得したほか、経済産業省の資源循環技術「奨励賞」を受賞するなど、公的機関の高い評価を得て

NETISで事後評価

汚染土壌対策では初

いる。

2005年には、異分野の事業者が連携し、経営資源を組み合わせることで新たな事業分野の開拓を目指す異分野連携事業の一環として「カドミウム等汚染水田の修復事業」に取り組み、汚染水田土壌の修復と汚染農業用水の水質浄化に効果を上げ、東北経済産業局と東北農政局の認定を受けた。

宮城県内では、東日本大震災に伴う大津波により、沿岸の15市町では水田面積約2万9000畝のうち、約1万畝が塩害を受け、作付けできない状況になっている。

同工法は、数種類の無機性天然鉱物を添加調合することでさまざまな汚染に対応でき、カドミウムや塩害の浄化事例もあることから、同社では今回被災した水田の修復にも積極的に取り組む考えだ。